



## 優秀賞

坂東市立岩井中学校 二年

# 命をつないでいく

井上華凜

「私たちがここに生きていることが奇跡。」

小学校の保健の授業で、養護教諭の先生がおっしゃっていたこの言葉が、今でも心に残っています。妊娠する確率は、宝くじで一等が当たるよりも低いと言われています。だから、今ここに私たちがいるのは奇跡なのです。

私の将来の夢は、助産師になることです。新しく生まれてくる命の奇跡に直接携わる責任ある仕事です。助産師について興味をもつようになってから、命について深く考えるようになりました。命について考えていく中で、次に話す二つの出来事が、命の大切さをより深く考えさせられるきっかけとなりました。

一つ目は、東日本大震災です。当時、私は一歳五か月でした。幼かったため記憶はほとんどありません。当時のこ

とを母に尋ねると、「立っているのも大変な中、お兄ちゃんとおなたを抱き抱えていたんだよ。」と涙目になって話してくれました。命がけで私を守ってくれていたのだと思うと胸が熱くなります。

二つ目は、新型コロナウイルス感染症が流行したこの生活です。人と人の距離をとるようになったため、日常生活ががらりと変わりました。卒業式や運動会など、たくさんの人と関わることに制限がかかるようになりました。命に関わる可能性があるウイルス。その見えない不安と共存していく生活は、とても大変でした。五月から、五類に移行し、さまざまな制限が緩和されました。しかし、まだまだ油断はできません。一人一人の意識の中に、相手の命、自分の命を守る思いやりを持続していかなければいけない

と思います。私にとって、この二つの出来事が自分を変え  
るきっかけとなりました。

命に携わる助産師の仕事について、母からいろいろな話  
を聞きました。「出産を介助するだけでなく、妊婦さんの  
相談にも乗るのよ。妊娠から産後までの、母子の保健指導  
も大切な仕事なの。」母の話から、おなかの中に赤ちゃん  
がいると分かったときから、お母さんはきつと不安でいっ  
ぱいなのだろうか。想像しました。「無事に生まれてくる  
だろうか。」「きちんと子育てができるだろうか。」そのよ  
うな不安を抱えているお母さんたちに対して、寄り添って  
支えてあげたいという気持ちになりました。

助産師を目指すにあたり、中学生の私にできることに  
ついて考えました。それは、誰かをサポートしてあげること  
です。岩井中学校では、仲間を支えるピア・サポートを行っ  
ています。ピア・サポートとは相手を思いやり、その思い  
やりを実践することです。私は、友達を一人にさせない、  
不安にさせないことを意識して接しています。例えば、体  
育の授業のときにペアになる人がいなかったら「いっしょ  
にやろうよ。」と声を掛けてあげます。相手の気持ちにな  
るためには、目配り・気配り・心配りが大切です。悩んで  
いる友達がいたら「どうしたの。」とじっくりと話を聴い

てあげます。相手の目を見て、うなずいたり共感したりす  
ることで、相手はたくさん話をしてくれるようになります。  
ピア・サポート研修で学んでいることは、未来のお母さん  
たちに寄り添い、支えてあげる助産師になるうえで必要な  
力になっていると感じています。

もちろん、私も悩んだりつらいときがあつたりします。  
そんなときは、家族や友達に相談して支えてもらいます。  
「私は一人じゃない。信頼できる人がいるんだ。」そう思え  
ることで、毎日を充実したものにできています。

地震と感染症の二つの出来事を経験して感じた命の大切  
さ。このことを、これから生まれてくる赤ちゃんや、命が  
けで出産をするお母さんたちに繋いでいきたいと思いま  
す。助産師の仕事を通して、思いやりのある子供たちが日  
本中にあふれてくれたら嬉しいです。

皆さん、今ここにいる奇跡を忘れず、共に寄り添い、支  
え合いながら、自分の命、周りにいる人の命を大切にして  
過ごしていきましょう。

